令和８年度　第２回鼎地域協議会 次第

日時　令和８年10月30日(金)午後７時00分～
場所　鼎自治振興センター ３階　第１会議室

１　開　会

２　会長あいさつ

３　日程等

(1) 諮問事項

「飯田市農業集落高齢者交流施設」の用途廃止について

(2) 協議・検討事項

①鼎地区における組合加入率の低下等とその対応等について【資料１】

②まちづくり委員会の女性役員の登用に伴う検討経過について【資料２】

③鼎複合施設の整備について（素案）【資料３】

４　その他

５　閉　会

会議録

会議の名称	令和８年度　第２回　鼎地域協議会	
開催日時	令和８年10月30日（金）開会19時00分　～閉会20時50分	
開催場所	鼎自治振興センター第１会議室	
議長氏名	安田莞爾	
出席委員および欠席委員	出席委員20名、欠席委員１名（笹　行夫委員）	
委員以外の出席者	事務局　鼎自治振興センター 所長　和泉忠志	
傍聴人数	０名	
会議事項（概要）	１　議題等	２　結果等
	①諮問事項 飯田市農業集落高齢者交流施設の用途廃止について ②協議・検討事項 ア　鼎地区における組合加入率の低下等とその対応等について イ　まちづくり委員会の女性登用に伴う検討経過について ウ　鼎複合施設の整備について（素案）	①諮問事項 異議なし ②協議・検討事項 ア　まちづくり委員会における検討状況を共有し、継続協議とした。 イ　検討経過を確認し、継続協議とした。 ウ　今後の進め方に議論が集中。継続協議とした。
会議資料	１　飯田市農業集落高齢者交流施設の用途廃止について ２　組合未加入者問題に関わるシート・対策の方向性 ３　まちづくり委員会役員実態調査一覧 ４　鼎複合施設の整備について（素案）	
録音記録の有無	録音記録の有無　☐ 有　☑ 無	
会議録の公開、非公開、部分公開の別	☑ 公開　☐ 非公開　☐ 部分公開	
選任署名人	片桐　由美委員、福澤　豊子委員	
会議録作成者氏名	鼎自治振興センター所長　和泉忠志	

上記のとおり相違ないことを証する

令和８年10月30日

議　長　安田宏爾

署名人　片桐由美

署名人　福澤豊子

第２回地域協議会における委員等による発言要旨について

○飯田市農業集落高齢者交流施設の用途廃止について

・廃止になった以降の施設はどうなるか（奥村委員）
　→予算編成中であるが、長寿支援課において、来年度施設を解体し更地にする予定。（農業課）
・防火水槽を含めた今後の土地利用の見通しは（奥村委員）
　→現段階では、見通しを示すことができる状況にない。（農業課）
・名古熊周辺は、子育て世代の人たちが多く、つどいの広場に対するニーズが高い地区。その後のつどいの広場の事業者支援はどうなっているのか。（唐澤委員・奥村委員）
・小学生と中学生の居場所づくりが地域課題になっており、市の具体的な支援が必要と思う。こうしたことを市側に伝えてほしい。（唐澤委員）
・農業課は担当部署ではないので、何らかの方法で伝えていく。（安田会長）
・平成 13 年の介護予防事業が始まった時には、既に設置条例で定めた設置目的を達成していたと理解して良いのか。（五十君委員）
　→お見込みのとおり。（農業課）
・地域協議会としては、用途廃止については異議なしと集約させて頂く。（安田会長）

○組合加入率の低下等とその対応等について

・アパートの入居者をはじめから排除せず、粘り強くアプローチすることが大切。そのため、わかりやすく説明できるよう区の役員会で打ち合わせを行ったところ。（戸﨑委員）
・組合未加入者に対しては、市側から加入についてしっかりアプローチすべきだ。まちづくり懇談会で取り上げてきているが不十分との印象。（戸﨑委員）
・上山区と中平では、地震防災訓練においてタオルによる安否確認を行ったところ、一戸建てやアパートの居住者の組合未加入者が参加し、防災を踏まえた意識の変化が表れている。未加入者を一方的に問題視していても状況は変わらない。組合未加入者に防災というテーマを持ってアプローチすることの重要性を感じた。（戸﨑委員・事務局）
・地域協議会を通じて市側へ意見具申ができることから、地域課題である組合未加入問題を整理し、意見具申をすることで課題解決につなげていくことが、地域協議会の本来の役割。
（小木曽委員）
・長野市の組合加入率は90%以上。組合に入ることが当たり前の雰囲気がある。一方飯田市はどうか。組合に入るのが当たり前になるような空気感がないと解決しない。まちづくり委員会もあらゆる手立てを検討し整理してきていることは評価できるが、仮に地域のデジタル化が進んでも寧ろ未加入者が拡大する懸念もある。大切なのは組合に入らなければならないという空気感。市側からも組合に入らなければならないような運動を定着させていくことが重要。
（奥村委員）
・ブロック所長会では、組合未加入シートを各地区作成し、４地区で共有化していくことを確認している。こうした動きが一枚岩となって協議会から市に対して意見具申をしていくことにつながる。まずは、４地区が一枚岩になることが大切。そのための役員学習会も予定されている。

（事務局）

・地域の空気感は大事。ポイントは、組合に入ることの重要性が理解されないと組合未加入者等の心は動かないという点。組合未加入の親を見て育った子どもたちが将来どうなるか心配。子供たちが地域や組合を知る機会を醸成していくことも、まちづくり委員会がすべき内容として追記してもらいたい。（木下委員）

・まちづくり委員会として対策がより具体的に進んだ印象。地域協議会としては、次回以降の継続協議としたい。（安田会長）

○まちづくり委員会の女性役員の登用に伴う検討経過について

・女性の比率だけを追い求めるのは違うのではないかと思っている。女性は子育てをして社会的に出遅れてしまう環境にあり、まずは、その環境を整えることが重要。（唐澤委員）

・社会へ出ることが逆に子育てがおろそかになることにつながらないことが大切。（唐澤委員）

・市で会計年度をしているが、仕事を通じて来庁者を見ていると、社会に出て活躍したい人もいるし、地域と繋がりたいと思っている女性も多いと感じる。問題は寧ろ、女性が女性の足を引っ張ることだ。（深尾委員）

○複合施設の整備について（素案）

・区長・委員長会や区会を中心とした素案組合未加入者の声をどのように反映させるのか。半分は組合未加入者であることから、意見聴取ができる仕組みが必要。（奥村委員）

→まちづくり委員会のホームページやセンターでの意見聴取が想定される。（事務局）

・PTA や高校生への意見聴取など期待できるのではないか。（奥村委員）

・学園構想の中で、みらい創造科のカリキュラムについて検討が始まる。その中で意見聴取が図られる可能性もある。（木下委員）

・みらい創造科のカリキュラムに地域課題はあるのか。（鈴木副会長）

→子どもが主役で、子どもたちが何をしたいか選択する。可能性はゼロではない。（木下委員）

・PTA は、市からの情報を一斉メールしており、その手法を用いれば意見聴取は可能と思う。（萱垣委員）

・様々な団体の方々に集まって頂いているのが地域協議会であるため、まずは、この場を活用し組織を代表して、具体的に意見を出してもらうことも必要。（安田会長）

・複合施設のプロポーサルコンペによる整備が可能となれば、全国区で鼎をアピールすることにつながる。飯田市出身の有名な建築家による施設もあり、参考にされたい。（木下委員）

・地域協議会以外の意見聴取の方法については、本日出された意見を参考に、まちづくり委員会で再検討をしてほしい。（安田会長）